

平成 29 年度第 3 回松戸市公共施設再編整備推進審議会 議事要旨

日時：平成 30 年 2 月 16 日（金）9：30～11：15

場所：松戸市役所 新館 5 階 市民サロン

出席者：柳澤委員（会長）、藤村委員（副会長）、池澤委員、村山委員、小川委員、森委員

○議事

- (1) 前回議事の確認
- (2) 全体計画について
- (3) モデル地域計画について
- (4) 東松戸まちづくり用地活用事業について
- (5) その他

(1) 前回議事の確認

事務局より、平成 29 年度第 2 回松戸市公共施設再編整備推進審議会の議事内容及び平成 29 年度第 1 回公共施設のあり方検討プロジェクト及び施設所管課を対象とした職員研修会の実施概要について説明を行った。

<主な意見>

- （職員研修会で講演を行った池澤委員より）公共施設再編整備は長期的に検討する必要がある、施設の維持管理を継続して行いつつ、まちをどのように作りあげていくかを考えていくことを趣旨として講演を行った。
 - 公共施設再編シミュレーションゲームについては、職員自身がなかなか公共施設再編等に直接携わる機会がない中で、ゲームではあるが実際のまちにおいてどのように再編整備を行うことが望ましいかを学ぶ良い機会であった。
 - 庁内研修会は毎年行われているのか。
- 庁内研修会は 3 年前から毎年開催している。当初は講演を行っていたが、昨年度は具体的な民活事例ということで PPP 事業等の紹介を行っている。今年度は池澤委員による講演と合わせて公共施設再編シミュレーションゲームを実施し、ワークショップ形式のゲームを体験することで職員の公共施設再編への理解を深める取り組みを行った。

(2) 全体計画について

事務局より、公共施設カルテ（素案）、現地調査結果の整理、松戸市公共施設再編整備基本計画に係る全体行程表（素案）について説明を行った。

<主な意見>

- 今後、公共施設カルテのデータと全体行程表が連動していくと考えているが、完成した公共施設カルテのデータに応じて全体行程表の方向性は変更する可能性はあるのか。
 - 現在の公共施設カルテについて、施設が抱える課題が一見ではわかりにくい面があることから、施設の老朽化等の評価項目はカルテに記載しないのか。例えば、女性センターは平成 28 年度に急激に利用者数及び稼働率が減少しているが、使用料収入については、変化が見られない。具体的なアクションに移すためには実際に施設を評価する視点も大事だと思う。
 - 行政と市民が施設の状態について情報を共有するためには、現地調査結果との整合を図るとともに、公共施設カルテに老朽化等の簡易的な評価項目があると望ましい。専門的に施設のマネジメントを行う段階においては、漠然とした評価項目ではなく、詳細なデータを積み上げていく必要があり、簡易評価と詳細評価の両面を意識しておくべきである。
 - 施設の老朽化については、現地調査結果より整理されているため、分かりやすい。なお、外壁のクラックは構造的なクラックか表面的なクラックかで意味が異なるため、専門的な調査も今後必要になると想定されるが、今回実施した現地調査は専門的な調査か。
 - 個々に施設を整備するのであれば、公共施設カルテのように個々の施設状況を確認することで整備状況や利用率が把握できるが、複合化や PPP 等の再編整備検討を行う場合、エリアごとに検討する必要があり、個々のデータとの関連性が複雑になってくる。
 - 公共施設カルテにおいて、将来経費は今後 30 年間の概算値となっている。一方で全体行程表は短期、中長期に分類されており、統廃合や再配置により、大きな投資のもと施設整備が行われ、規模が適正になることで、その後のメンテナンスコストが減少することが想定される。その際、個別に維持管理した場合と統廃合や再配置を行った場合の施設経費を積み上げて、市全体や地域単位で公共施設の維持管理ができるかどうか、今後確認していく必要があると考える。
 - モデル地域計画など、エリアマネジメントにより公共施設を再編整備する方向性であれば、全体行程表をエリアごとに整理したほうがわかりやすい。
 - 松戸市公共施設再編整備基本方針（H27.7）において、公共施設の大規模修繕及び建替えにかかる将来経費として平成 34 年から平成 85 年までの 51 年間に於いて、毎年約 74 億円の一般財源が必要と見込まれ、約 17 億円不足する結果となり、白書における将来費用試算結果と比較すると 8 億円減少していると記載されているが、どのような理由で 8 億円減少したのか。
- 今回の施設カルテ対象施設の現地調査は目視調査により老朽化状況等を概括的に調査する形で実施しており、専門的な調査ではない。施設カルテと全体行程表等の方針との整合については、今後地域単位の視点で整理・検討を行っていきたい。

- 庁内検討において、松戸市内全ての公共施設の更新経費を概算したデータは持っている。概算結果では、今後 10 年間は現状のまま問題ないが、10 年以降、更新経費が不足する見込みとなっている。今後、個々の公共施設の将来経費と、集約・複合化した場合に抑えられるコストを概算し、比較していく方向で検討を図っていききたい。
- 公共施設再編整備基本方針の将来経費については、方針検討時の試算条件として、施設規模を見直した過程で算定しているために将来費用の試算結果が減少している。詳細を確認して、改めて回答する。

(3) モデル地域計画について

事務局より、モデル地域計画に関して、小金原地域で実施したワークショップ及びシンポジウムの結果概要について説明を行った。

<主な意見>

- 公共施設再編整備基本計画に、小金原地域の意見や取り組みを盛り込んでいきたいと考えている。そのためには、小金原地域での活動を通じて地域から行政に意見を伝えていく一方で、行政側からも地域に対して情報提供を行うことが重要であるとする。
- 小金原地域ではワークショップやシンポジウムを経て、地域住民がまちづくりに対して意見を発信するようになってきている。
- 行政側から支援していく視点も大事だと思う。他地域で教育施設の再編に携わっているが、新しい学校のあり方を検討するためには、行政は地域の意見を吸い上げるだけでなく、海外等の先進事例の情報を提供し、行政と地域住民で共に意識を変えつつ具体化していくことが望ましい。
- 市に一つしかないような主要施設については、デザインに優れたものでも良いと考えるが、地域ごとに立地している同じ機能を持った施設（集会施設等）は、施設用途に捉われすぎることなく、簡易的な施設構造や統一的な機能構成による地域共通的な施設配置を図るなど、棲み分けを図ることでコスト削減を図っていくことが必要と考える。
- 小金原地域を成功事例としていくことで、他の地域でも同様な取り組みを醸成していくことが今後必要であるとする。
- 地域福祉の観点では、平成 30 年度診療報酬改定により、在宅介護及び在宅医療が推進され、地域に暮らすということに主眼が置かれることで、外出の仕方や、外出ができる距離にならなければならないのか検討されていることから、地域で暮らす視点が重要と考える。その上で空き店舗など地域の空きスペースの利活用等が重要な視点となっている。
- 地域に分散する施設が公共施設である必要があるかという議論も必要ではないか。公共施設は集約・再配置の方向性であると考えられるが、他方で住み開きや空き家の利活用等で地域が自主的に運営を行う施設が増加していくと考えられる。
- 各地域で異なる地域課題の解決に向けては、公共施設再編の方向性と整合した地域単

位でのシナリオづくりが大事だと思う。

- それぞれ異なる課題を持つ代表的な 4 地域（モデル 3 地域＋拠点ゾーン）でパイロットプロジェクトを実施し、全市に展開していくストーリーが考えられる。
- ご意見を踏まえて、次年度のモデル地域計画や公共施設再編計画の検討に活かしていきたい。

(4) 東松戸まちづくり用地活用事業について

事務局より、東松戸まちづくり用地活用事業の選考結果及び審査講評について説明を行った。

<主な意見>

- 今回はまちづくり用地の活用事業であり、難しい敷地条件ではあったと思う。今後は事業対象地を複数の選択肢の中から、事業性を考慮して民間事業者の立場になって選定することが望ましい。
 - 東松戸まちづくり用地活用事業の実施にあたって、市民の意見をどのように吸い上げたのか。小金原地域のように継続的にワークショップやシンポジウムを開催し、まちづくりを検討する方法もあるが、地域の傾向も様々であり、東松戸地域など近年移住してきた住民が多い地域ではワークショップ等の開催は困難であり、別の手法の検討が必要である。
 - 公共施設のうち、学校施設の占めるボリュームが大きいことも踏まえ、今後は学校においても、民間事業者に地域の新しい学校作りを提案してもらう機会があっても良いと思う。働き方改革が進む中、学校職員の働く環境を改善していく方向の提案があっても面白いと思う。
 - 図書館と学校の親和性（図書館の司書と教員による教育連携）や海外の先進事例（校内にカフェやバブがある環境）を参考にすれば、空き教室等の利活用による地域交流も可能であると考えられる。
 - 福祉の視点では、サ高住よりも地域包括ケアへのシフトも必要と感じる。民活事業においては、民間事業者から行政の求めている提案されない可能性があるため、行政がある程度必要としている民間サービスの方向性（シナリオ）を示すことが大事だと思う。
- 市民意見については、藤村委員らに協力頂き、東松戸地域でひがまつトークイベントを 2 回開催した。また、千葉大学、東京藝術大学の学生に東松戸駅前に整備する公共施設のイメージ模型を作成してもらい、模型展示会を開催した。

(5) その他

- 次回の平成 30 年度松戸市公共施設再編整備推進審議会の開催は、庁内の組織体制等を考慮し、後日に個別に調整を行い、連絡することとする。

(以上)